

〇〇断ち

2019. 12. 5

私の娘は高校3年生である。先日大学受験が終了した。後は結果待ちである。親としてさほどのことはできていない。だが、結果が出るまでの間、何かできないかと考えた。すぐに浮かぶのは「神頼み」であろう。これは過去の経験からうまくいかないことがわかっている。ふと思いついた。今までやったことがないことをやってみよう。もう娘のためにこんなことができるのは最後かもしれない。

梁川高校の3年生の進路は進学も就職も全員決まっている。就職のうち、1つめの事業所の試験で決まった生徒がいる。しかし、1つめがうまくいかず、2つめの事業所の試験に臨んだ生徒もいる。本人はさぞかし苦しかったことと思う。大きな不安感にくじけそうになったかもしれない。試験を受ければ、多少面接が上手くいなくても受かってほしいと願うものである。受からなくても平静を装い学校に来なくてはならない。そして、次の事業所の試験に向けて準備をしなければならぬ。本校の教員も生徒の心情を察しながら指導に当たっていたに違いない。合格内定の通知をもらうまでの時間は長かったことだろうと思う。親御さんの心中はいかばかりか。何かにすがりたいと思われたかもしれない。

今回、私が思いついたのは「願掛け」それも「〇〇断ち」である。こんなことは今までやったことがない。好きなものを断つわけである。さて何を断とうかと考えた。毎日口にするのがよい。あるいは毎日食べないにせよ好きな食べ物がよい。私が出した結論は、「夕食の米断ち」である。私は、そもそもここ数年、家で夕食をとるときには、ご飯（米）を少ししか食べない。だが、完全に食べないとなると、また話は別である。炭水化物をとらない。きつとお腹がすく。毎晩、食欲との戦いである。

この「夕食の米断ち」を実行に移すということは、私が我慢をしなければならない時間帯は夜の19:00～21:00くらいの間ということになる。1日の仕事が終わりに、家に帰り、一番くつろげる時間帯である。今日は12月5日（木）である。12月2日（月）から「夕食の米断ち」を始めた。とりあえず三日坊主はクリアできた。これは続けられるかもしれないという見通しが立ったので、この紙面を借りて有言実行というわけである。公に「〇〇断ち」を宣言したわけだから、途中で断念したら格好がつかない。今号の紙面は自分を追い込むためのものである。

本当は、「コーヒー断ち」ができればよいのだが、これはきつい。我慢をしなければならない時間が朝から晩までと、かない長い。やれそうもないことは最初からやらないほうがよい。そういえば、私の妻は、昔のことだが1年間「コーヒー断ち」したことがあった。すごい人である。

梁川高校の3年生の親御さんも、何かしらお子さんのためにやっていたかもしれない。毎日祈っていたかもしれない。親というのはそういうものだろう。私の「〇〇断ち」は、さほどの期間ではない。たいした効果はないだろう。たとえ合格発表の日に天使が舞い降りてこなくても、それまで何もしていないよりは精神的に少しは楽になれるような気がする。親というものは、結局、心配すること、励ますこと、祈ることぐらいしかできないのかもしれない。